

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：33107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K03493

研究課題名(和文)日本における政治学リーディングズの不在とその克服：比較政治学的検討

研究課題名(英文)The Absence and Conquest of Political Science Readings in Japan: A Comparative Political Study

研究代表者

越智 敏夫(Ochi, Toshio)

新潟国際情報大学・国際学部・教授

研究者番号：20247183

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：各年度の報告のとおり研究成果は多くの論考、書籍、研究発表として公表されている。中心的成果として2019年10月の日本政治学会研究大会における(在外研究中の津田を除く)全メンバー参加のパネル「政治学教育のイデオロギーと戦後民主主義」があげられる。本パネルでの報告原稿を元にした論考が、越智による巻頭言とともに新潟国際情報大学『国際学部紀要』第5号(2020年)に掲載された。また岡本は新型コロナ禍における政治学を含めた高等教育に関してSNS(Facebook)上に討論のためのグループを開設し、内外の多くの研究者からの発言を得て総合的な議論の場を提供した。なお全体の研究成果は書籍として刊行予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

政治学のありかたは各政治社会によって大きく異なっている。とはいえ日本の政治学教育は他国の高等教育機関における政治学教育と比較すると、かなり特殊な状態にあるといえる。これはあらゆる領域におけるグローバルズの現況からすると例外的な事象と考えられる。本共同研究ではそれらの意義について戦後民主主義との関連で総合的に考察できた。日本における政治学教育の「特殊性」を確認しつつ、そうした学問的状态が戦後民主主義において果たしてきた機能と意義と問題点について確認し、政治学教育のより民主主義的なありかたについて構想できたことには政治学教育の実践的領域において意義があったと思われる。

研究成果の概要(英文)：As reported in each fiscal year, the research results have been published in many articles, books, and papers in workshops. One of the main achievements is the panel "Ideology of Political Science Education and Postwar Democracy" at the Annual Meeting of the Japan Political Science Association (October 2019), which all members (except for Tsuda, who was studying abroad) participated in. In addition, articles based on the papers of this panel were published in the Bulletin of the Faculty of International Studies of the Niigata University of International and Information Studies, No. 5 (2020), along with an introduction by Ochi. Furthermore, Okamoto has set up a discussion group on SNS (Facebook) regarding higher education, including political science, in the COVID-19 pandemic, and provides a forum for comprehensive discussion based on comments from many researchers both inside and outside Japan. The overall research results are scheduled to be published as a book.

研究分野：政治学

キーワード：政治学 政治学教育 戦後民主主義 政治理論 政治思想 市民社会 日本政治 リーディングズ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

研究課題 日本における政治学リーディングズの不在とその克服：比較政治学的検討

研究課題/領域番号 16K03493

### 1. 研究開始当初の背景

政治学のありかたは各政治社会によって大きく異なっている。とはいえ日本の政治学教育は他国の高等教育機関における政治学教育と比較すると、かなり特殊な状態にあるといえる。これはあらゆる領域におけるグローバリズムの現況からすると例外的な事象と考えられる。本共同研究ではそれらの意義について戦後民主主義との関連で総合的に考察する。日本における政治学教育の「特殊性」を確認しつつ、そうした学問的狀態が戦後民主主義において果たしてきた機能と意義と問題点について確認し、政治学教育のより民主主義的なありかたについて構想する。

以上のような問題関心は本研究の参加予定者の多くが執筆した『年報政治学 2011-I 政治における忠誠と倫理の理念化』のための共同研究が発端となっている。本応募の研究代表者である越智が年報編集委員長となり、定期的に開催された研究会で幾度も議論の対象となったのは、政治学における基本概念の共有の困難さだった。政治学研究者だと自認している者どうしでさえ、いくつかの基礎概念や学問的手法については相互の共通理解が成立していなかった。

それらの議論のたびに各研究者の学問的背景や学習カリキュラムの差異などが痛感された。それらと同時に議論の対象になったのは、このような事態をふせぐためには基本論文集が必要であるにもかかわらず、なぜ日本においてはそれが存在しないのか、ということだった。

それは同時に、望ましい政治学教科書に関する議論にもなったが、事実として日本語で書かれた政治学の教科書は数多く存在する。それに対してリーディングズはほぼ皆無なのである。これは日本の政治学教育のみならず、政治学研究にも関する、ある重要な特質を示しているように思われる。したがって、こうしたリーディングズの実態に関して比較研究することが、各政治社会における特徴的な政治的思考の差異さえ明らかにすることが可能ではないかと期待されるようになった。

### 2. 研究の目的

他国の高等教育機関における政治学教育で一般的に使用されている Readings（基本論文集：以下「リーディングズ」と表記）が日本の政治学教育には存在しない。本研究ではこうした事態に至った経緯と原因を明らかにしたうえで、本事象がもつ政治的意義について考察する。さらには各国の政治学教育におけるリーディングズの内容、使用法などの実態を調査し、それぞれの特徴を明確にすることで、各政治社会における政治学教育の機能、目的などの差異についても明らかにする。それらの比較政治学的な考察を総合し公表したうえで、最終的にはわが国における望ましい政治学教科書についても構想し、実際に刊行することを目的とする。

### 3. 研究の方法

研究代表者と研究分担者（研究途中で3名から4名に変更）による4年計画（コロナ禍の影響によって7年に延長）の共同研究を中心とし、その調査、討議に連携研究者（研究途中で3名から2名に変更）と研究協力者（4名）が参加した。最終的に公表される論文作成と、刊行予定の政治学教科書の編集は研究代表者、研究分担者、連携研究者がおこなう。当初の4年計画のうち、前半2年は基礎的な問題の所在の確認と、各国におけるリーディングズに関する調査、またその結果の統合を中心とした。後半2年（コロナ禍の影響により5年に延長）はそれらの議論をもとに、日本におけるリーディングズの不在について理念的に検討し、その経緯や政治的特質について明確にしたうえで、比較政治学的な考察結果を公表した。さらに政治学教科書に含めるべき具体的な内容の選択について協議し、各分担者によって執筆、刊行する。

研究方法のより具体的な作業としては、まず政治学リーディングズと政治学教科書に関する問題の所在を確認した。共同研究を開始するにあたってリーディングズと教科書に関する議論を整理し、どのような問題関心のもとで研究を遂行するか全員で再確認した。リーディングズが生まれてきた理念やその使用に関する態様も確認した。さらに戦後日本の大学教育において政治学の教科書としての機能を実質的に果たしてきたといえる丸山眞男『増補版 現代政治の思想と行動』（未来社、1964年：新装版2006年）について討議した。特にその第一部「現代日本政治の精神状況」は戦前の超国家主義体制への批判と戦後民主主義への信頼が強く、政治学のみならず、戦後日本社会に関する社会科学的議論の基層を形成したとさえいえる。さらには本書第三部「『政治的なるもの』とその限界」は、戦後日本における具体的な争点に言及しているとはいえ、政治的思惟の特質や個別の概念の解説としては今なお高い有効性、有意性を保持しており、政治学の基本教科書のみならず、リーディングズとしての機能さえ果たしてきたともいえる。逆にいえば本書の存在が戦後日本における政治学リーディングズの必要性を看過させてきたともいえる。そこで本書のリーディングズとしての機能について再確認した。

つづいて他の政治社会の政治学教育におけるリーディングズを調査した。諸外国の政治学教育におけるリーディングズについて事前調査として文献学的に調査する。特に英語圏において評価の高いリーディングズについて検討した。これらのリーディングズについて、各収録論文の内容確認から始め、その編集方法、出版形態、著作権処理の方法などにいたる諸論点について精査した。

以上のような共同討議をもとにして、各自が政治学教育に関する論考を発表した。その際、各研究者が主として担当したのは以下のような政治学のサブ領域である。なお津田と都築は研究協力者であり、他が研究分担者である。

越智敏夫 : 政治理論  
石田淳 : 国際政治  
岡野八代 : 政治理論、フェミニズム  
岡本仁宏 : 西洋政治思想  
出岡直也 : 比較政治（第三世界）  
津田由美子 : 比較政治（先進諸国）  
都築勉 : 日本政治思想、丸山眞男研究

#### 4. 研究成果

各年度の報告のとおり研究成果は多くの論考、書籍、研究発表として公表された。中心的成果として2019年10月の日本政治学会研究大会における（在外研究中の津田を除く）全メンバー参加のパネル「政治学教育のイデオロギーと戦後民主主義」があげられる。本パネルでの報告原稿を元にした論考が、越智による巻頭言とともに新潟国際情報大学『国際学部紀要』第5号（2020年）に掲載された。また岡本は新型コロナ禍における政治学を含めた高等教育に関してSNS(Facebook)上に討論のためのグループを開設し、内外の多くの研究者からの発言を得て総合的な議論の場を提供した。なお全体の研究成果は書籍として刊行予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 出岡直也	4. 巻 207
2. 論文標題 チャベス政権支持増減の要因としてのマクロ経済と再分配政策：世界資本主義の中のラテンアメリカ政治への含意の視角から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡野八代	4. 巻 952
2. 論文標題 ケア/ジェンダー/ 民主主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 92-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石田淳	4. 巻 120-1,2
2. 論文標題 学知を問い直す契機：COVID19と国際政治学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際法外交雑誌	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 越智敏夫	4. 巻 5
2. 論文標題 緒言 小特集「政治学教育のイデオロギーと戦後民主主義」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 79-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 越智敏夫	4. 巻 5
2. 論文標題 戦後政治学における教科書の遍在とリーディングズの不在	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 5
2. 論文標題 フェミニズムにおける政治と政治学教育の緊張関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 89-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田淳	4. 巻 5
2. 論文標題 《意図せざる結果》をめぐる《適確に評価されざる論争》 冷戦期における日本の防衛構想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 101-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 16
2. 論文標題 家族：政治からの解放は可能か？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 65-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 913
2. 論文標題 差別発言と、政治的文脈の重要性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 140-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 47-3
2. 論文標題 「平和の少女像」とは誰か：パトラーにおける倫理との対話のなかで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 206-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本仁宏	4. 巻 18
2. 論文標題 公益社団法人と認定特定非営利活動法人との相違とその意味：日本における公益的社団法人の構造把握に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済産業研究所ディスカッションペーパー	6. 最初と最後の頁 1-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都築勉	4. 巻 18
2. 論文標題 戦後第二世代の政治学：書評：趙星銀『「大衆」と「市民」の政治思想』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 政治思想研究	6. 最初と最後の頁 366-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越智敏夫	4. 巻 2
2. 論文標題 個人的経験と集合的記憶：ロベール・ルパージュ<887>論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学 国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 4
2. 論文標題 フェミニズム理論と安全保障 24条「改正」論議を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジェンダー法研究	6. 最初と最後の頁 15-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 46-2
2. 論文標題 フェミニズムとリベラリズムの不幸な結婚? 日本軍性奴隷制問題をめぐる反動に抗して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 90-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本仁宏	4. 巻 941
2. 論文標題 選挙活動の解禁で揺れるアメリカ非営利セクター	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 公益・一般法人	6. 最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本仁宏	4. 巻 46-4
2. 論文標題 注目すべき答申でみる行政庁の法人監督最前線：不認定答申・勧告に焦点を当てて(詳細版)(後編)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 公益法人	6. 最初と最後の頁 20-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越智敏夫	4. 巻 1
2. 論文標題 政治理論における<有効性>：高島通敏と戦後日本	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新潟国際情報大学 国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 75-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yayo Okano	4. 巻 25
2. 論文標題 Why has the Ethics of Care Become an Issue of Global Concern?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology	6. 最初と最後の頁 85-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 82
2. 論文標題 関係性アプローチと法理論 ジェンダー平等と暴力の観点から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 法社会学	6. 最初と最後の頁 22-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野八代	4. 巻 53
2. 論文標題 継続する第二波フェミニズム理論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 同志社アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 103-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田由美子	4. 巻 66-5,6
2. 論文標題 ベルギーにおけるポピュリズムと地域主義政党 ブラームス・ブロック (フラームス・ベラング) を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法学論集 (関西大学法学部紀要)	6. 最初と最後の頁 371-394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 脱政治化/ 無化された者たちの連帯は可能か? : ケアと労働のはざままで
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小澤伊久美, 蒲生諒太, 話題提供, カルダール淑子, 原田奈穂子, 岡本仁宏, 平川秀幸
2. 発表標題 オンラインで広がる現場と私たちのアクチュアリティ: 新しい時代の公共圏をつくるコミュニケーション
3. 学会等名 日本質的心理学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本仁宏
2. 発表標題 非営利団体は、今、どこにいるのか
3. 学会等名 非営利法人研究学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小澤伊久美，蒲生諒太，話題提供，カルダー淑子，原田奈穂子，岡本仁宏，平川秀幸
2. 発表標題 市民社会論研究者としての研究・研究指導と実践
3. 学会等名 日本キャリア教育学会近畿地区部会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshio Ochi
2. 発表標題 “ The Reversion of Democracy: Basic Methodologies of Political Science in Postwar Japan and the US. ”
3. 学会等名 Modern Japan in the Comparative Imagination Conference: An Interdisciplinary Conference at Durham University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越智敏夫
2. 発表標題 戦後政治学における教科書の遍在とリーディングズの不在
3. 学会等名 日本政治学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 フェミニズムにおける政治と政治学教育の緊張関係
3. 学会等名 日本政治学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田淳
2. 発表標題 敗戦国の国際政治学
3. 学会等名 日本政治学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 出岡直也
2. 発表標題 ベネズエラにおける競争的権威主義体制下の投票行動に関する予備的分析
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会定期大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 ケアの倫理の源流へ：個からグローバルへ
3. 学会等名 第11回看護倫理学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 Thinking through Precarious Japan
3. 学会等名 Care Ethics Research Consortium
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡野八代
2. 発表標題 批判的安全保障論とケア：フェミニズム理論は「安全保障」を語れるのか？
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡本仁宏
2. 発表標題 アメリカにおけるトランプ政権下でのジョソ修正撤廃問題の展開：公益的非営利組織の政治活動と税制
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡本仁宏
2. 発表標題 公益法人認定・監督制度の現状と課題
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshio Ochi
2. 発表標題 Politics of Citizen (Shimin) in Postwar Japan
3. 学会等名 International Conference on Starting with the Now: Critical Studies of East Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Okano Yayo
2. 発表標題 “Horror of Constitutional Coup in Japan: Why Abe’s Administration Horrifies Us
3. 学会等名 Japanese Studies Association of Australia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Okano Yayo
2. 発表標題 The Lack of Care/ The Lack of Participation: From Experiences of Poor Women in Japan
3. 学会等名 International Conference on Caring Democracy: Current Topics in the Political Theory of Care (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡本仁宏
2. 発表標題 国際比較の視点から見た公益NPOの政治活動規制：あるべきルールを求めて
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡本仁宏
2. 発表標題 NPOと「政治的中立性」問題：「NPOと政治」
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡本仁宏
2. 発表標題 公益法人認定・監督制度の現状と諸問題：施行10周年に向けて民間での検討と提案に向けて
3. 学会等名 日本NPO学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 津田由美子
2. 発表標題 合意型デモクラシーとしてのベルギー政治
3. 学会等名 日白修好150周年記念シンポジウム：文化・知の多層性と越境性へのまなざし 学術的交流と「ベルギー学」の構築をめざして（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 牟田 和恵、岡野 八代、丸山 里美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 208
3. 書名 女性たちで子を産み育てるということ	

1. 著者名 都築勉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 おのがデモンに聞け 小野塚・吉野・南原・丸山・京極の政治学	

1. 著者名 越智敏夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 政治にとって文化とは何か：国家・民族・市民	

1. 著者名 鷗飼哲、田中利幸、前田朗、岡野八代	4. 発行年 2018年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 237
3. 書名 思想の廃墟から：歴史への責任、権力への対峙のために	

1. 著者名 後 房雄、坂本 治也、山本 英弘、小田切 康彦、岡本 仁宏、初谷 勇、仁平 典宏、栗本 昭、善教 将大	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 290
3. 書名 現代日本の市民社会	

1. 著者名 日本平和学会、遠藤 誠治、石田 淳、土佐 弘之、阿部 浩己、古沢 希代子、山田 哲也、毛利 聡子、清水 奈名子、佐伯 奈津子、阿部 利洋、水本 和実、我部 政明、君島 東彦、林 博史、黒田 俊郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 328
3. 書名 平和をめぐる14の論点	

1. 著者名 川崎修・萩原能久・出岡直也編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 アーレントと二〇世紀の経験	

1. 著者名 大矢根聡編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 190
3. 書名 日本の国際関係論	

1. 著者名 米原謙編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 「まつりごと」から「市民」まで	

1. 著者名 仙石学編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 196
3. 書名 脱新自由主義の時代？  新しい政治経済秩序の模索	

1. 著者名 越智敏夫（監修）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 あかね書房	5. 総ページ数 95
3. 書名 10代のうちに知っておきたい政治のこと	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 淳  (Ishida Atsushi)  (90285081)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	岡野 八代  (Okano Yayo)  (70319482)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授   (34310)	
研究分担者	岡本 仁宏  (Okamoto Masahiro)  (20169155)	関西学院大学・法学部・教授   (34504)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	出岡 直也  (Izuoka Naoya)  (50151486)	慶應義塾大学・法学部・教授    (32612)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	津田 由美子  (Tsuda Yumiko)		
研究 協 力 者	都築 勉  (Tsuzuki Tsutomu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 International Conference: Starting with the Now: Critical Studies of East Asia Past, Present, and Future	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Plenary Panel of Japanese Studies Association of Australia	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 International Conference on Caring Democracy: Current Topics in the Political Theory of Care	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Workshop on Japanese Politics	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------